

第五管区

おもしろ火台集



平成25年11月1日

第五管区海上保安本部交通部

まえがき

国民のみなさんにとって、灯台は岬や港の絵、写真、観光地のシンボルとして馴染みのことでしょう。

灯台の役目は、船を安全に導くためのもので、灯の光り方や灯台の色にも全て意味があります。

船長さんは、「海の道しるべ」ともいえる灯台の持つ意味をその光り方や色によって理解し、安全に船を操ります。

灯台やブイなどを専門的に「航路標識」と言っていますが、これは船のためのものですから、一般的に大変機能的で、しかもシンプルな形をしており、個性のあるものは少なくなっています。

さて、海上保安庁では、「海の交通安全」を図るため、法令に基づいて、港や航路での船舶交通の安全指導や航行規制、また船が安全に航海できるよう航路標識を管理運用するなどの仕事を一元的に行っています。

航路標識の分野では、光をともし灯台などを全国で約5,200基、電波や音などを利用した標識を含めると約5,300基あまりの航路標識を管理運営しています。

この航路標識は時代の変化に伴い、より機能的で低コスト、さらに環境にやさしい物へと常に変化しています。

一方で、明治時代に造られた灯台などは、見た目にも美しく、芸術的で海、空にとけ込んで人の心を和ませてくれるものがあります。

また、海上保安庁以外の方が造られた灯台も多く、そのなかには大変ユニークなものがあります。

本誌は、第五管区の管内での個性ある航路標識などをピックアップし、まとめてみました。

これを読まれて、少しでも航路標識についてご理解いただければ幸いです。

本誌で紹介する「おもしろ灯台」を機会に、近所にある『おもしろ灯台』を探索されてはいかがでしょうか。

ひょっとすると海から離れた町のなかに我々の知らない、地域に馴染んだ歴史的な「灯台」が見つかるかもしれませんね。

なお、疑問や本誌で紹介した以外に発見されたという話題があれば、下記までご連絡ください。

〒650-0042 神戸市中央区波止場町1-1

第五管区海上保安本部交通部計画運用課

078-391-6551(代表)

078-331-2710(直通)

目 次

【現役の灯台】

・潮岬灯台	3
・榎野崎灯台	4
・雑賀崎灯台	5
・神戸第一防波堤東灯台	6
・江崎灯台	7
・淡輪港西防波堤灯台	9
・足摺岬灯台	10
・大関酒造今津灯台	11
・神戸メリケンパークオリエンタルホテル灯台	12
・ワッケン灯台	13

【引退した灯台】

・和田岬灯台	14
・明石港突堤灯台	15
・堺灯台	16
・相生港カベ島灯標	17
・飾磨港西防波堤灯台	18

【昔の灯台】

・手結港の常夜灯	19
・灘の一寸火	20
・住吉高灯籠	21

【灯台の形をした建物】

・みさき公園	22
・江崎公園	23
・赤穂海浜公園	24
・舞洲	25
・足摺岬	26

・海の緊急情報配信サービスご存知ですか？	27
----------------------	----

しおのみさきとうだい

潮岬灯台 (海上保安庁管理)

潮岬灯台は、黒潮洗う海拔約30mの断崖上にあり、本州最南端の灯台としてその名が知られています。

また、この灯台では、社団法人燈光会が参観業務を行っており、ラセン階段を上り切ると、目前に大海原が開け、最高の眺めがそこにあり、まさにここが本州最南端の地であることを実感することができます。灯台下には資料館もあり、見学することができます。

潮岬灯台は、昔、江戸幕府が、英、仏、蘭、米の4カ国と慶応2年(1866年)に締結した江戸条約で建設が決められた観音埼灯台(神奈川県横須賀市)や檜野埼灯台(和歌山県東牟婁郡串本町)など8灯台のうちの1つであり、現在の石造りの姿は、2代目で隣町の古座町の砂岩を使用し、明治10年5月から翌11年(1878年)4月にかけて改築されたもので、明治期の貴重な灯台のひとつです。



位置図



所在地	和歌山県東牟婁郡串本町
北緯	33度26分15秒
東経	135度45分16秒
灯質	単閃白光毎15秒に1閃光
光度	970,000カンデラ
光達距離	19.0海里(約35km)
高さ	構造物 23m 平均水面上~灯火 49m
設置年月日	明治6年9月15日

檜野埼灯台 (海上保安庁管理)

檜野埼灯台は、周りを串本町が公園化の整備をしており、灯台には串本町が整備した展望台があります。

この灯台は、前述の潮岬灯台と同じく江戸条約で建設が決められた灯台で、日本最古の石造り灯台の内の一つであり、また、閃光灯の灯台としては日本最古のものです。英国技師「R・H・ブラント」が手掛け、1869年4月に着工し、翌年6月10日に点灯されました。灯台の付近に自生する水仙は、当時の技術者達が持ち込んだ物とされています。



位置図

所在地	和歌山県東牟婁郡串本町
北緯	33度28分18秒
東経	135度51分43秒
灯質	群閃白光毎20秒に2閃光
光度	440,000カンデラ
光達距離	18.5海里(約34km)
高さ	構造物 15m 平均水面上～灯火 47m
設置年月日	明治3年6月10日



さいかさきとうだい
雑賀崎灯台（海上保安庁管理）

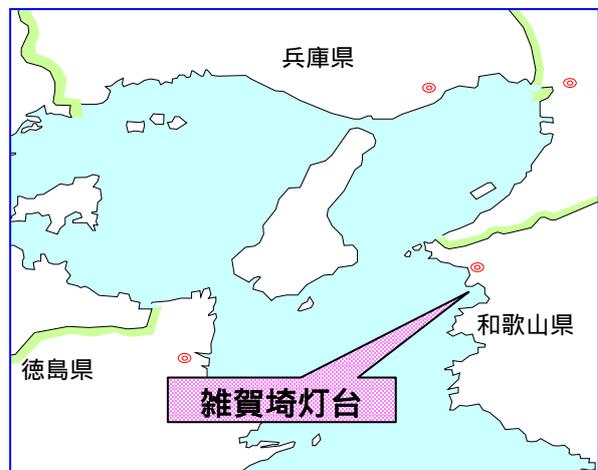
雑賀崎は和歌山市の景勝地、北に和歌山の港を、南に和歌浦港を一望できる風向明媚な岬です。

この灯台は、和歌山市がつくった展望台の上に、海上保安庁が灯塔を整備したもので、全国的に大変珍しい灯台で、紀伊水道を航行する船舶や、和歌山港などへ出入りする船舶の主要な目標になっています。



位置図

所在地 和歌山県和歌山市
北緯 34度 11分 18秒
東経 135度 08分 27秒
灯質 単閃白光 毎8秒に1閃光
光度 140,000カンデラ
光達距離 20.5海里（約37km）
高さ 構造物 7.7m
平均水面上～灯火 75.0m
設置年月日 昭和35年3月31日



こうべだいいちぼうはていひがしとうだい
神戸第一防波堤東灯台（海上保安庁管理）

阪神港神戸区は、我が国屈指の貿易港です。この灯台は昭和6年に造られたもので、神戸区内に現存する灯台では、遠矢浜の神戸灯台（明治5年設置、その後改修）に次ぐ2番目に古い灯台です。

当時は、神戸港唯一の灯台として玄関口を照らしていました。

この灯台には『神戸港』の看板が掲げてありますが、全国でも例がないものです。

これは、神戸港が台風により度々被害を受け、特に昭和39年（台風20号）、昭和40年（台風23号）に2年連続で西神戸・遠矢浜地区の護岸が被害を受け、大浸水をおこしました。

この被害の惨状を伝え聞いた女流書道家の^{ながはま}長浜 ^{あきら}洗さんが昭和42年に港の安全祈願のために自費で製作した『神戸港』の大看板を第五管区海上保安本部長の許可を受けて神戸市長が灯台に取り付けたものです。

（一文字のプレートの大きさは、縦横各2メートル）

なお、入港する船舶に存在を明示するために、灯塔の下からライトアップしており、神戸市街の夜景に『神戸港』の文字が際立っています。



位置図

所在地 阪神港神戸区（第一防波堤東端）
北緯 34度39分16秒
東経 135度12分09秒
灯質 単明暗緑光 明6秒暗2秒
光度 38カンデラ
光達距離 4.0海里（約7km）
高さ 構造物 19m
平均水面上～灯火 19m
設置年月日 昭和6年8月15日



えききとうだい
江崎灯台（海上保安庁管理）

江崎灯台は、明治4年建設以来140年あまりにわたり明石海峡を照らし続け、現存する灯台のなかでは3番目に長い歴史を持っています。「1番 御子元島灯台（明治3年1月点灯） 2番 檜野崎灯台（明治3年6月点灯）」

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、発動発電機により電源が供給され消灯はしませんでした。基礎が明石方向に傾斜し、石積みの壁の横ずれなど、建物に大きな被害を受けました。建物の修復にあたっては、その傷痕の保存に配慮して実施しました。

なお、灯台への通路である階段にも「野島断層」の爪痕があり、これも当時の状況に近い形でカラーコンクリートで固めて保存しています。



所在地	兵庫県淡路市
	北緯 34度36分23秒
	東経 134度59分36秒
灯質	不動赤白互光 赤火5秒 白光5秒
光度	赤光 24,000カンデラ
	白光 62,000カンデラ
光達距離	赤光 16.0海里（約29km）
	白光 18.5海里（約34km）
高さ	構造物 8.3m
	平均水面上～灯火 49m
設置年月日	明治4年4月27日

位置図





江崎灯台の修復状況（壁面の影は地震でずれた部分）



野島断層の保存状況（ずれた状態を赤いカラーコンクリートで固めて補修）

たんのわこうにしぼうはていとうだい

淡輪港 西防波堤 灯台 (海上保安庁管理)

淡輪港西防波堤灯台は昭和38年3月に点灯しましたが、大阪府港湾整備計画(淡輪港の拡張・マリーナ整備)に伴い、平成9年8月に外郭防波堤先端部に移設されました。

その際、ヨットをイメージした灯台に改装されたものです。

これは、港内にヨットハーバーを持つこと及び「なみはや国体」のヨットレース(平成9年9月開催)会場となったことから、そのイメージを灯台のデザインに生かしたものです。

構造は流線形の帆を表現するため、耐久性のあるチタンを外装に使用している点が特徴で、全国でも例がありません。



位置図

所在地 大阪府泉南郡岬町
北緯 34度20分20秒
東経 135度11分00秒
灯質 単閃赤光 毎5秒に1閃光
光度 26カンデラ
光達距離 3.5海里(約6km)
高さ 構造物 8.8m
平均水面上~灯火 13m
設置年月日 昭和38年3月30日



あしずりみさきとうだい

足摺岬灯台（海上保安庁管理）

足摺岬灯台は大正3年（1914年）4月に設置点灯した灯台で、現在の灯台は昭和35年に建て替えた2代目となります。建て替えにあたり、地元から「地域発展のため斬新なデザインに」との要望があり、当時、アメリカ合衆国とソビエト連邦（現 ロシア）の両国が宇宙ロケットの開発に力を入れていたことから、世相を反映しロケットをイメージした灯台になりました。



初代 足摺岬灯台

位置図



所在地	高知県土佐清水市
北緯	32度43分27秒
東経	133度01分13秒
灯質	群閃白光 毎30秒に3閃光
光度	460,000カンデラ
光達距離	20.5海里（約37km）
高さ	構造物 18m 平均水面上～灯火 61m
設置年月日	大正3年4月1日

おおぜきしゅぞういまづとうだい

大関酒造今津灯台（大関株式会社管理）

この灯台は、江戸時代後期の文化7年（1810年）に大関酒造の長部家5代目長兵衛さんが今津付近から江戸に酒を回漕する船（樽回船）の目印のために、私費で建設した灯明台が始まりです。

その後、たびたび修理、改修が行われましたが、現在でも付近を航行する小型船等の安全を見守る灯台として役目を果たしています。

現在の灯台は昭和59年に創設当時の姿に復元されたものです。

灯台の周囲はウォーターフロントとして整備され、市民の憩いの場所となっています。



所在地 兵庫県西宮市
北緯 34度43分14秒
東経 135度20分46秒
灯色・構造 黒色四角形 灯ろう形
灯質 不動緑光
光度 38カンデラ
光達距離 4.0海里
高さ 構造物 6.7m
平均水面上～灯火 7.9m
設置年月日 昭和43年11月1日（海上保安庁が正式に航路標識として許可した日）

位置図



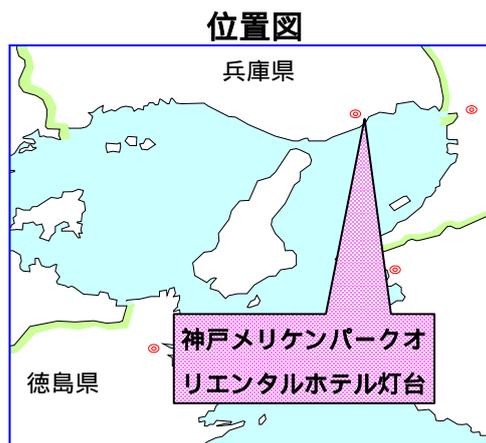
神戸メリケンパークオリエンタルホテル灯台

この灯台は、関西汽船株式会社管理の許可標識（神戸オリエンタルホテル屋上灯台）として昭和39年2月20日に神戸市生田区（現中央区）京町のオリエンタルホテル屋上に設置されたものですが、平成7年1月の阪神淡路大震災でオリエンタルホテルが全壊。灯台も休止を余儀なくされ、同年7月に開業が決まっていた神戸メリケンパークオリエンタルホテルへと移設されました。

移設するにあたって、明治5年に神戸港の和田岬に建てられ、現在ではその役目を終えて、須磨海岸に保存されている和田岬灯台（14ページ参照）の形を模して設計されました。

移設した灯台は、ホテルの開業を目前にひかえた平成7年7月7日午後7時7分7秒に震災で被害に遭った神戸の復興の新しいシンボルの1つとして再点灯されました。

この灯台は、神戸メリケンパークオリエンタルホテルの14階に位置していることから、夜間においては近くのハーバーランド等を散策する人達からもよく見えます。



所在地	兵庫県神戸市
	北緯 34度40分47秒
	東経 135度11分19秒
塗色・構造	白色 塔形（鉄造）
灯質	単閃赤緑互光 毎10秒に 赤1閃光、緑1閃光
光度	赤光 48,000カンデラ 緑光 51,000カンデラ
光達距離	赤光 17.5海里（約32km） 緑光 18.0海里（約33km）
高さ	構造物 4.8m 平均水面上～灯火 54m
設置年月日	昭和39年8月26日



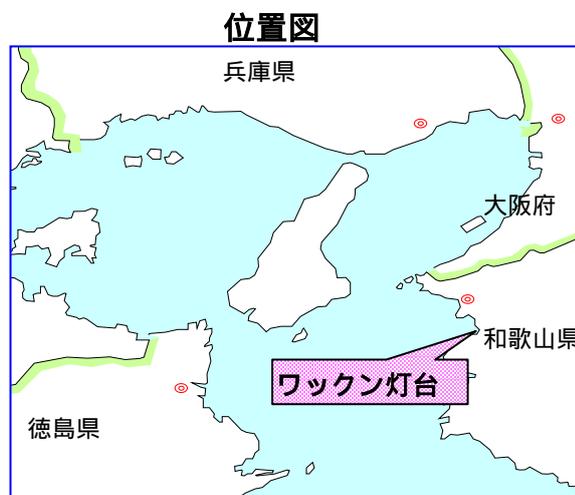
ワクケン灯台（和歌山県管理）

これは灯火の明るさや構造物の規模が非常に小さいため、航路標識としての正式な名前はありませんが、和歌山マリーナシティ（和歌山県和歌山市毛見）の北防波堤に設置されており、このマリーナシティのマスコットとして地元の人々に親しまれています。

この『ワクケン（くじら）』は、平成6年7月から9月にかけて開催された世界リゾート博のマスコットキャラクターとなっていたものです。



灯質 単閃赤光 毎4秒に1閃光
光度 14 カンデラ
設置年月日 平成6年3月25日



【引退した灯台（現存）】

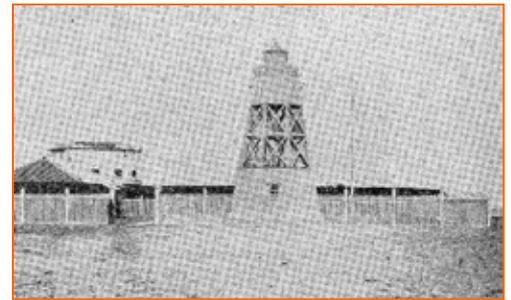
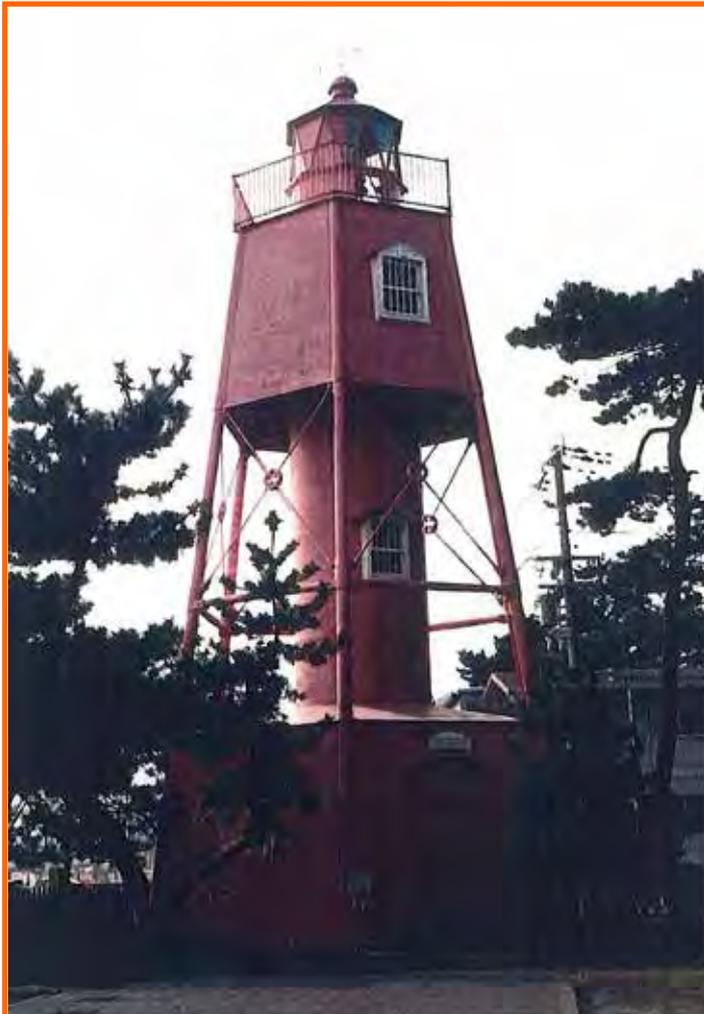
わだみさきとうだい
和田岬灯台（兵庫県神戸市須磨区）

和田岬灯台は、友ヶ島灯台等と同様、我が国の洋式灯台の父といわれている英国人ヘンリーブラントン一行による灯台整備箇所の調査の結果、建設が決定されたものです。

明治5年創建の初代の灯台は、八角形木造で高さ46尺（約14m）でした。

明治17年に改築された鉄造灯台は、神戸市による和田岬付近の海上埋め立て工事による補償により遠矢浜埋立地先へ昭和38年10月に移設（現在のコンクリート造）されるまでの約80年間神戸港の表玄関を標示してきました。（海上保安庁管理）

この鉄造の灯台は神戸市教育委員会により須磨海岸にそのまま海路運搬され、史跡として余生を送っています。



和田岬灯台（初代）と和田岬砲台（左）
-燈光会「灯台百年史」から-



あかしこうとついでとうだい

明石港 突堤 灯台 (兵庫県明石市)

明石港は、元和7年(1621年)に当時の明石藩主・小笠原忠真によって、元々浜辺であったところに人工の掘り込みの港として造られた港です。

この港は、砂で埋まりやすく、毎年3月には侍、足軽、町人と町を上げて浚渫に当たったとの記録が残っています。

明石港突堤灯台は明暦3年(1657年)に明石藩主・松平忠国によって造られました。この頃には、江戸へ荷物を運ぶ菱垣廻船が活躍し始め、明石港も瀬戸内海の物資の交易のため、潮流の早い海峡の潮待ち港として、また淡路への連絡港として重要な位置を占めるようになっていました。

この灯台の詳しい歴史は昭和20年7月7日の戦災により台帳が消失したため不明ですが、戦後、明石市から海上保安庁へ移管され昭和38年3月に廃止されるまで長く明石港の重要な灯台として活躍しました。

現在は灯火から下の部分だけが残っています。



明治の頃の明石湊口

-国立国会図書館ウェブ サイトから-

位置図



きかいとうだい
堺灯台（大阪府堺市）

江戸時代の終わり嘉永6年（1853年）アメリカ使節ペリーの浦賀来航により、永い鎖国を続けていた幕府もついに開国することになり、これに伴い外国船が安全に航海できるよう各地に灯台の建設が進められました。

堺は、港にかける期待も大きく、当時の堺県を動かし、市民の基金と国費で灯台を建設するよう国に願い出ましたが、願いは叶いませんでした。

しかし、市民の熱意は止みがたく、市中の有力者から集めた基金と県の補助金で港の改修と洋式灯台の築造を成し遂げました。

灯台は英国人技師ビグルストンの設計によるものとされていますが、灯台の基礎と木製灯塔部は石工の継国真吉と堺在住の大工大眉佐太郎によるものです。

建物の形は六角形で、当時、石油ランプの緑色の光が選ばれました。

築造費は、当時のお金で、灯台新築費2,125円、点灯機械購入費約360円を要しました。

堺灯台は明治10年に築造、その後海上保安庁に移管され約1世紀の間、大阪湾を照らし続けましたが、沖に向かって広がる埋め立てのために、昭和43年1月29日、遂にその役目を終え廃止となりました。

昭和45年、堺市が払い下げを受けて修理、昭和47年、国の史跡に指定されました。

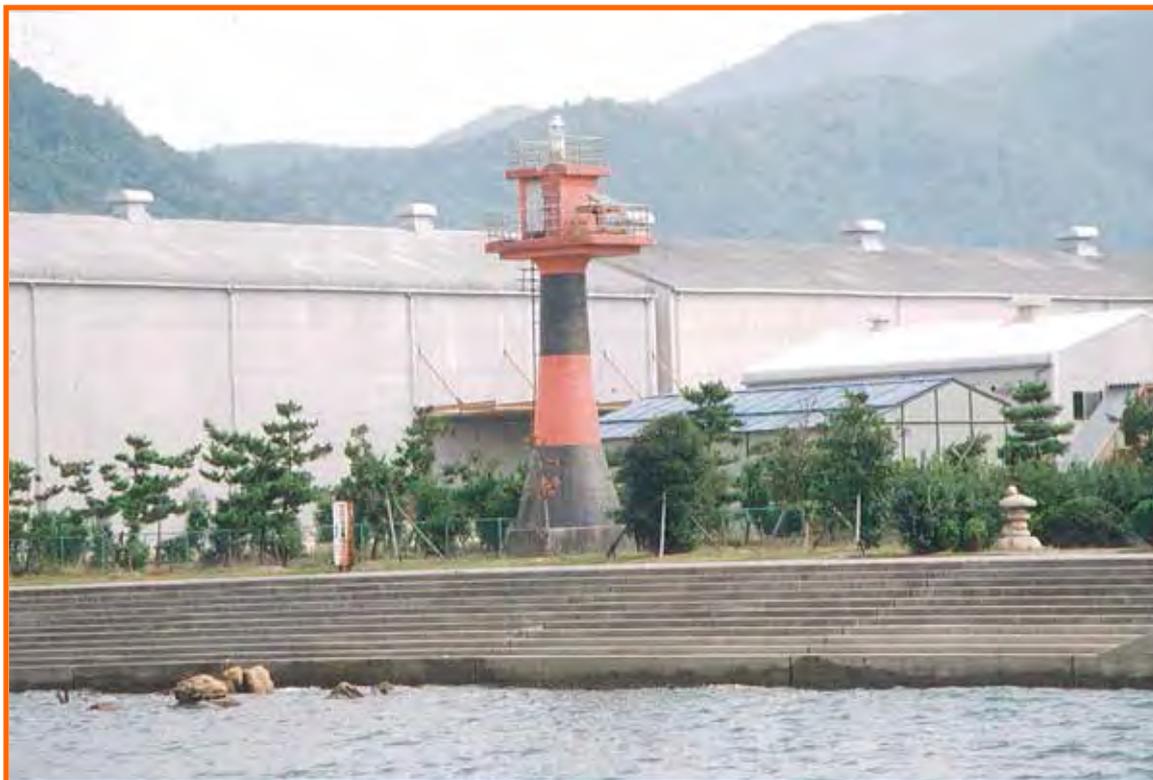


あいおいこうかべしまとうひょう

相生港カベ島灯標（兵庫県相生市）

この灯標は、昭和46年に設置されましたが、その後の港湾整備に伴う埋め立て工事により、カベ島が陸地となり、標識としての機能がなくなったため昭和56年廃止されました。

廃止に伴い、整備された埋立地内公園に保存されています。



位置図



しかまこうにしぼうはていとうだい

飾磨港 西防波堤 灯台 (兵庫県姫路市)

この灯台は、海上保安庁によって昭和21年4月1日、旧飾磨港西防波堤に播磨地方では最初に設置された灯台です。

当時としては最新技法であった鉄筋コンクリート製で、高さ10mの灯塔は近代的な円形でした。

光源にはアセチレンガスが用いられ、光度1,400カンデラ、光達距離11海里で漁船や機帆船等の航行の安全を守り続けました。

しかし、播磨工業地帯の発展に伴い、港の整備が沖合へと拡張され昭和41年12月沖合防波堤に新灯台が整備されたのを機に役目を終えました。

その後、解体する予定であったところ、地元住民の保存運動が起こったため、兵庫県の臨海公園の整備に併せ、当該公園の一角に平成5年3月、27年ぶりに復元されました。

灯塔は、現役当時のままに復元されましたが、灯ろうはステンレス製のものが設置されています。

(公園では『飾万津灯台』と名前を付けています。)



位置図



【昔の灯台】

ていこう 手結港の常夜灯（高知県香南市）

高知県手結港は土佐の藩政後期の橋本屋、かね廣などに代表される回船業者によって商港としても栄え、県内外の出入りで賑わった歴史的な港です。

この常夜灯には正面に『施主讃州丸亀港萬問屋木屋甚七』、側面に『明治五年九月吉日』とあります。



位置図



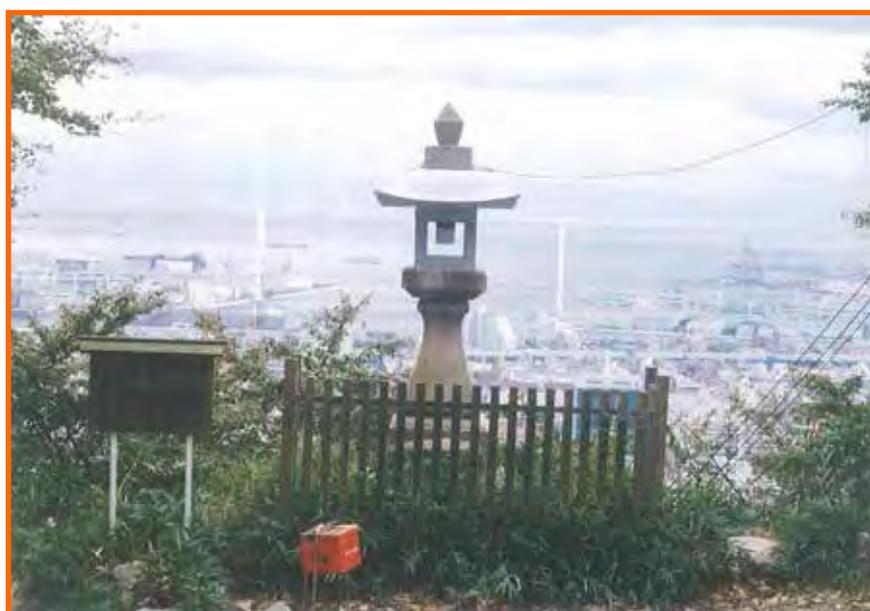
なだのひとつび
灘の一寸火（兵庫県神戸市東灘区）

この石灯籠は神戸の青木を見下ろす金鳥山の中腹にある保久良神社の境内にあり、遠い昔から『灘の一寸火』と呼ばれて、沖を通る船人の目印にされました。

この石灯籠は、文政8年（1852年）のものですが、古くから麓の北畑村の天王講の人々が交代で油を注いで灯を灯し続けてきたものです。

なお、現在は電灯に代わっています。

平成7年1月17日の阪神・淡路大震災で一部破損しましたが、現在では写真のように修復されています。



位置図



すみよしとかとうろう

住吉高灯籠 (大阪府大阪市住之江区浜口西1丁目)

住吉高灯籠は、当初は住吉大社境内にあった常夜灯で、鎌倉時代末期の創建とされ、現在の場所から西に200メートルのところにありました。現在は高灯籠のまわりは内陸の市街地となっていますが、当時は海に面しており、灯台の役目も果たしていたようです。

現在の高灯籠は、昭和25(1950)年のジェーン台風により上部が倒壊したものを昭和49(1974)年に復元したもので、高さは21メートルあります。



明治の頃の住吉海浜高灯籠

-国立国会図書館ウェブサイトから-

位置図



【灯台の形をした建物】

みさき公園（大阪府泉南郡岬町）

（株）南海電鉄直営の遊園地内の建造物です。

非常に灯台に似ているため、海図にも『観光灯台』として載せられています。
（当然、灯火は点灯しません）



位置図



えさきこうえん
江崎公園（兵庫県淡路市）

兵庫県が整備した公園内のモニュメントです。
人が近づくと波の音ができる仕組みになっています。



位置図



FRP製 白色 塔形 高さ8.0m
灯火 不動青色（蛍光灯20w）
設置年月日 平成6年4月

あこうかいひんこうえん
赤穂海浜公園（兵庫県赤穂市御崎）

赤穂海浜公園管理事務所が整備した公園モニュメントです。

海上保安庁が管理する赤穂御崎灯台を 1/3 程度に縮小したもので、鉄筋コンクリート製（タイル張り）です。



位置図



まいしま
舞洲（大阪市此花区）

大阪市港湾局が整備した舞洲緑地内のモニュメントです。

灯台と間違えられないようにするため、灯火は海上から見えないように工夫されています。



位置図



あしずりみさき

足摺岬（高知県土佐清水市）

高知県土佐清水土木事務所が整備した足摺岬灯台付近の街灯です。



位置図



「海の緊急情報配信サービス」ご存知でしょうか？

海上保安庁では、テレビやラジオが視聴できない海上のプレジャーボートや釣り等のマリンレジャー愛好者が、携帯電話やスマートフォンで**気象警報・注意報、津波警報・注意報、海難事故、避難勧告**などの情報を手軽に入手し、安全な速力や適切な避難行動に繋げることが出来るサービスを行っています。

1

「緊急情報配信サービス」で配信する情報

気象警報・注意報等

実施中

気象庁が発表する次の気象警報・注意報等の情報(全国)

 <p>津波警報 注意報</p>	 <p>気象警報 暴風、大雨、波浪、高潮、大雪、暴風雪</p>	 <p>気象注意報 強風、波浪、高潮、濃霧、低気圧、大雨、大雪</p>	 <p>地方海上警報 濃霧警報、強風警報、暴風警報、台風警報、つねり警報、霧水警報</p>
--	---	---	---

安全情報

実施中

平成24年7月1日サービス開始

広域緊急情報(全国)

 <p>武力攻撃事態等、海上保安庁国民保護計画に基づき航行船舶へ伝達すべき情報</p>	 <p>避難勧告等 台風、暴風、津波等による、冠長(または海上保安部長)等が発する場における避難勧告等の発令状況</p>	 <p>海難・事故等 航行船舶へ影響のある海難・事故等の発生情報(船舶沈没、津波流出事故等)</p>	
 <p>航行の制限 船舶航行の制限・禁止に関する情報(視界不良時の航行制限、海中障害物等による海域の航行制限等)</p>	 <p>航路標識の異常等 灯台・灯浮標等の航路標識の消滅等の情報</p>	 <p>航路障害物の状況 航行船舶へ影響のある漂流物等の情報(流木、無人漂流物等)</p>	<p>その他 その他航行船舶の安全を確保するために必要な情報</p>

～登録方法はこちらから！～

2

メール配信の設定

登録



<http://www7.kaiho.mlit.go.jp/micsmail/reg/touroku.html>
にアクセス

『新規登録・登録内容変更・解除』を選択して、空メール（文字を入れずに）を送信する

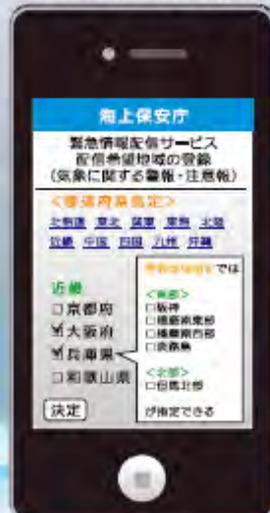
仮登録メールが届いたら、メール本文のURLにアクセスして本登録する

本登録が完了すると、本登録完了メールが届く

地域・時間・曜日指定

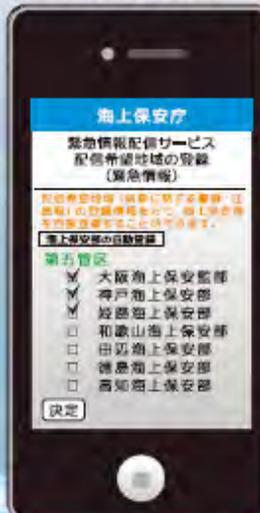
① 気象警報・注意報 (都道府県別)

受観したい地域の都道府県、地域別で指定



② 緊急情報 (海上保安部別)

受観したい地域の海上保安部を指定



③ 配信希望時間

受観したい時間帯を指定

④ 配信希望日

配信希望する曜日を指定



「おかえり」と、

灯台が

言った。

この標語は、2011年「こううん」、灯台にちなむキャッチコピー等応募作品です